

Dell™ OptiPlex™ XE — ウォッチドッグタイマー

Dell OptiPlex ウォッチドッグタイマーを使用すると、次の操作を実行できます。

- コンピュータのステータスを監視する
- Microsoft® Windows® タスクマネージャに表示されているプログラムを追跡する
- 定義された期間内に追跡対象プログラムが停止した場合の対処法を定義する

ウォッチドッグタイマーはデルサポートサイト（**support.dell.com/support/downloads**）からダウンロードして、インストールできます。

セットアップユーティリティでのウォッチドッグタイマーの有効化

ウォッチドッグタイマーを有効にするには、セットアップユーティリティ（BIOS）を使用します。セットアップ ユーティリティでウォッチドッグタイマーを有効にすると、ウォッチドッグ タイマーの ハードウェアカウンタが開始します。

注意：ウォッチドッグタイマーをインストールする前にセットアップユーティリティでウォッチドッグタイマー有効にすると、コンピュータが再起動を繰り返すことがあります。

メモ：セットアップユーティリティでウォッチドッグタイマーを有効にする前にウォッチドッグタイマーにアクセスすると、ウォッチドッグタイマーが無効であり、セットアップユーティリティで有効にする必要があることを示すメッセージが表示されます。

メモ：セットアップユーティリティでウォッチドッグタイマーを有効にする前に、ウォッチドッグタイマーをインストールする必要があります。

1 コンピュータの電源を入れ、Dell ロゴが表示されたら <F2> キーを押します。セットアップユーティリティ画面が表示されます。

2010 年 3 月

2 メンテナンス → **Watchdog Timer Support**（ウォッチドッグタイマーのサポート）をクリックします。

3 **Enable Watchdog Timer**（ウォッチドッグタイマーを有効にする）チェックボックスを選択します。

4 適用 および **Exit**（終了）をクリックします。コンピュータは再起動します。



メモ：オペレーティングシステムの再インストールを実行する場合、または POST（電源投入時の自己診断）中にコンピュータを一時停止にする場合は、ウォッチドッグタイマーが無効になっていることを確認してください。

ウォッチドッグタイマーへのアクセス

ウォッチドッグタイマーにアクセスする手順は、次の通りです。

- デスクトップ上の **Dell OptiPlex XE Watchdog Timer**（**Dell OptiPlex XE** ウォッチドッグタイマー）アイコンをクリックします。ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースウィンドウが表示されます。
- スタート → プログラム → **Dell** → **Dell OptiPlex XE Watchdog Timer**（**Dell OptiPlex XE** ウォッチドッグタイマー）をクリックします。ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースウィンドウが表示されます。

ウォッチドッグタイマーの使い方

System Monitor（システムモニター）	コンピュータの現在のステータスが表示されます。ウォッチドッグ タイマーは次の各段階でコンピュータを監視します。 • コンピュータの電源投入時 • オペレーティングシステムのロード時 • オペレーティングシステムのロード後 ウォッチドッグタイマーはオペレーティングシステムインタフェースの Windows タスクマネージャで実行中のプログラムを追跡します。 **メモ：**定義された更新間隔内にコンピュータの応答が停止したら、ウォッチドッグタイマーはコンピュータを再起動します。 更新間隔の変更の詳細については、3 ページの「更新間隔の変更」を参照してください。

Program Monitor（プログラムモニター）	Windows タスク マネージャに表示されているプログラムの中から、ウォッチドッグタイマーで監視するプログラムを選択できます。 **メモ :** また、追跡されるプログラムのステータスも表示できます。 プログラムの追跡の詳細については、3 ページの「プログラムの追跡」を参照してください。
Configuration（設定）	ウォッチドッグタイマーの自動 実行およびプログラムモニターログファイルに関連した設定を変更できます。 自動実行機能の設定の詳細については、6 ページの「自動実行機能の設定」を参照してください。 プログラムモニターステータスログの有効化の詳細については、6 ページの「プログラムステータスモニターログの有効化」を参照してください。
About（バージョン情報）	ウォッチドッグタイマーのバージョンおよび著作権に関する詳細が表示されます。

更新間隔の変更

ウォッチドッグタイマーは Windows タスクマネージャに表示されるプログラムを、定義された期間に渡って追跡します。

ウォッチドッグタイマーの更新間隔を設定する手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースの **System Monitor**（システムモニター）タブをクリックします。

2 **Watchdog Timer refresh interval**（ウォッチドッグタイマー更新間隔）セクションで、次の処理を実行します。

- + または - ボタンをクリックして、間隔を設定します。
- ... ボタンをクリックし、更新間隔を秒単位で入力してから、**OK** をクリックします。

プログラムの追跡

追跡対象プログラムを選択する手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースで、**Program Monitor**（プログラムモニター）をクリックします。

2 **Program Status**（プログラムステータス）セクションで ボタンをクリックし、ウォッチドッグタイマーを使用して監視するプログラムを選択します。

 **メモ：**追跡できるのは、Windows タスクマネージャで実行中のプログラムのみです。ウォッチドッグタイマーのアプリケーション インタフェースでは、最大 5 つのプログラムを追跡できます。

3 追跡するプログラムのチェックボックスを選択します。

 **メモ：**既に追跡されているプログラムの ボタンをクリックすると、現在追跡中のプログラムを停止するように通知するメッセージが表示されます。

操作の定義

定義された追跡間隔内にプログラムが応答しなかった場合に開始する必要がある操作を定義できます。

この操作を定義する手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースで、**Program Monitor**（プログラムモニター）タブをクリックします。

2 **Program Status**（プログラムステータス）セクションで、 アイコンをクリックします。**Tracking Detail Settings**（追跡の詳細設定）ウィンドウが表示表示されます。

3 プログラムが応答しなくなったときに実行する必要がある操作を選択します。

a コンピュータを再起動するには、**Reboot system**（システムの再起動）をクリックします。

- ソフトウェア制御によってコンピュータを再起動するには、**Software Reboot**（ソフトウェア再起動）をクリックします。
- シャットダウン手順を実行しないでコンピュータを再起動するには、**Hardware Reboot**（ハードウェア再起動）をクリックします。

 **注意：Hardware Reboot（ハードウェア再起動）を実行すると、データが失われます。データが失われないようにするには、データを保存してください。**

b **End the Program**（プログラムの終了）をクリックして、応答しないプログラムを終了します。



メモ：このオプションを選択すると、応答していないプログラムのみが終了し、自動的に再起動されません。

c プログラムを終了して再起動するには、**Restart the Program**（プログラムの再起動）をクリックします。

4 **OK** をクリックします。

追跡間隔およびタイムアウト期間の設定

プログラムモニター タブでは、ウォッチドッグタイマーが実行する監視対象プログラムのステータスチェックの頻度を指定できます。また、ウォッチドッグタイマーがプログラムの応答を待機する期間も指定できます。

追跡間隔を設定する手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースで、**Program Monitor**（プログラムモニター）タブをクリックします。
2 **Track Interval (seconds)**（追跡間隔（秒））セクションで、 または ボタンをクリックして追跡間隔を設定します。
3 ボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示されます。
4 **Track Interval**（追跡間隔）を秒単位で入力し、**OK** をクリックします。

タイムアウト期間を設定する手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースで、**Program Monitor**（プログラムモニター）タブをクリックします。
2 **Timeout (seconds)**（タイムアウト（秒））セクションで、 または ボタンをクリックして、タイムアウト期間を設定します。
3 ボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示されます。
4 **Timeout period**（タイムアウト期間）を秒単位で入力し、**OK** をクリックします。



メモ：ウォッチドッグタイマーで追跡されているプログラムが応答していない場合は、定義されたタイムアウト期間後にプログラムが再起動することを示すメッセージが表示されます。選択した操作に応じて、再起動時の動作は異なります。詳細については、4 ページの「操作の定義」を 参照 してください。

自動実行機能の設定

自動実行機能を設定する手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースの **Configuration**（設定）タブをクリックします。

2 **Auto run when system starts up**（システム起動時に自動実行）チェックボックスを選択して、コンピュータ起動時にウォッチドッグタイマーを自動的に起動します。

プログラムステータスモニターログの有効化

プログラムログファイルには、さまざまな期間に渡って監視および追跡された各プログラムのステータスが格納されています。

プログラムステータスモニターログを有効にする手順は、次の通りです。

1 ウォッチドッグタイマーのアプリケーションインタフェースの **Configuration**（設定）タブをクリックします。

2 アイコンをクリックして、ウォッチドッグタイマーで監視および追跡されるすべてのプログラムのログファイルを表示します。
